

県民の歌 発表会

文書館 ニュース

山口県文書館
Yamaguchi Prefectural Archives

No.53



contents

- 「防長唱歌」と「県民歌」に見る山口県の歴史・・・ 2/3
- 歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議・・・ 4
- 徳山毛利家文庫の新公開資料・・・ 4
- 地方調査員会議を開催しています・・・ 5
- ウェブサイトで公開！近代刊行写真帳類・・・ 5
- 平成30年度の新収諸家文書の紹介・・・ 6/7
- 閲覧室から・・・ 7
- 亀山山頂より～記録された明治のながめ～・・・ 8



'63.5.24／県体育館

「県民の歌発表会」（リーフレット昭和38-26）
「県民の歌発表会」（広報課大型写真311）

に見る山口県の歴史

1 山口県民歌3代

山口県では県民歌が3回作られています。それぞれの歌詞は時代背景の違いを反映して目指すべき県の理想の姿が歌われており、3つを比べることで山口県の自画像の変遷をたどることができます。

(1) 山口県民歌(昭和十五年) * 一般郷土史料B 383~385

紀元二六〇〇年記念事業の一環として制定されました。歌詞は県民の応募作品をもとに、山口県出身の文学博士渡邊世祐、文部省唱歌の作詞者である高野辰之が加筆修正し完成させました(作曲は信時潔)。歌詞は山口県の歴史を基調とし、1番と2番が県の過去、3番が現在、4番が将来を歌っています。大陸への進出を歌う4番からは時代の雰囲気伝わってきます。

(2) 山口県民歌A・B(昭和二十六年) * 教育広報第3巻第4号(行政資料50教育76掲載
終戦とともに(1)は廃止され、昭和二十六年に新しい県民歌が制定されました。ここでも歌詞が募集され、選考の結果、岩本邦子と清川妙の2作品が甲乙つけがたく、「山口県民歌A」「山口県民歌B」として両者とも採用となりました。歌詞に続き曲も募集されましたが該当作品が無く、2つとも防府市在住の作曲家大村能章が曲を付けました。「希望」「平和」「夢」「虹」など明るい未来を連想させる言葉が含まれており、戦後間もない時代の雰囲気をよく表しています。

(3) 山口県民の歌(昭和三十八年) * 山口県ウェブサイトに掲載

現在の県民歌は県政施行九〇周年と第一八回国民体育大会開催にあわせて昭和三十八年に制定されました。作詞は佐藤春夫、作曲は信時潔です。歌のお披露目として、五月二十四日、県立体育館で「県民の歌発表会」が催され、宇部市出身の歌手三鷹淳による歌と歌唱指導が行われました。なお、国体開催にあわせて、県民歌とともに県旗も制定されています。



山口県民歌Aの楽譜



「県民の歌発表会」
(リーフレット昭和 38-26)

2 地理歴史防長唱歌(防長唱歌)

「汽笛一声新橋を」で知られる「地理教育鉄道唱歌」(鉄道唱歌)が刊行されたのが明治三十三年(一九〇〇)五月。このころ「地理唱歌」「地理歴史唱歌」と銘打ち、郷土を歌った唱歌が全国各地で作られました。多くは現在忘れられています。長野県の「信濃の国」のように、県民歌として歌い継がれているものもあります。

「地理歴史防長唱歌」(防長唱歌)もその一つで、山口県内各地の地理、寺社・駅・産業や産物、重要な史跡、地域の歴史などが端的に、かつリズムカルに歌われています。県全体と大島・玖珂・熊毛・都濃郡を扱う第一集が明治三十四年一月、佐波・吉敷・厚狭・美祿郡を扱う第二集が同三十六年一月に刊行されました。豊浦・大津・阿武各郡と下関市を扱う第三集は、第二集刊行時に「近刊」とされていますが、実際刊行されたかは不明です。

「地理歴史防長唱歌」の作詞者は、当時、徳山中学校教諭であった富田武一です。富田は国語・漢文・修身などを担当した教員で、のち岩国・豊浦高等学校の校長となり、県内の女子教育に大きな功績のあった人物です。歴史や地理に深い知識をもつ富田は、晩年東京で公爵毛利家特別職員となり、両公伝編纂事業(幕末維新期の毛利家当主敬親・元徳の伝記編纂事業)に従事し、伝記執筆を担当しました。

作曲者は、第一集が山口県師範学校教諭大橋純二郎。第二集には大橋が作曲した別の曲と、都濃郡戸田村立桜田高等小学校校長浅田五一が作曲した楽譜も掲載されています。大橋純二郎は京都出身、県師範学校二人目の音楽専門教師として赴任し、のち静岡県師範学校に転任しました(梶田清七「山口発信唱歌の航跡」参照)。音楽の専門家であった大橋の格調高いメロディーと、当時流行した「ピョンコ節」で作られた浅田の親しみやすいメロディーが対照的です。



「防長唱歌 第2集」
(一般郷土史料B379)

「防長唱歌」と「県民歌」

① 山口県民歌

懸賞募集篇改潤

渡邊世祐

作詞 高野辰之

作曲 信時 潔

一 豊浦の宮の故事しのび
藩祖の訓代々に守りて
百万一心結びも固く
奉公の意気天地に満てり
いざいざ仰げ御遺徳
永久にかはらぬ御鏡ぞ

二 幾百年の妖雲払ひ

天日の光四海を照す

維新の偉業翼賛の誉

負持つ我等ぞ山口県民

いざいざ仰げ指月山

焦土尊王の精神を

三 三面海なる天与の国主

管む農商漁塩の外に

新に興れる殷賑工業

雲なす煙は三州になびく

いざいざ仰げ水陸の

産業文化の結ぶ実を

四 西日本の玄関出でて

指すは大陸亜細亜の空に

共存共栄心に期して

正しき力新しき生命

いざいざ仰げ諸共に

築き上ぐべき大殿堂

② 山口県民歌 A B

山口県民歌 A

作詞 岩本邦子

作曲 大村能章

一 朝た大気をいつぱい吸って
行こうよ野良へ工場へ海へ
働く者の郷土を作る
そなた希望だ山口県だ
みんな一緒にがんばろう

二 瀬戸のうちうみ船あし軽く

長門の浦の夕日も赤い

たのしい平和な日本を作る

そなた希望だ山口県だ

みんな一緒にがんばろう

三 明治維新のあの父祖達の

熱と力を今この腕で

生まれかわった世界をつくる

そなた希望だ山口県だ

みんな一緒にがんばろう

山口県民歌 B

作詞 清川 妙

作曲 大村能章

一 波かすむ瀬戸の島より

潮騒の北海かけて

やまかはの清けき山口

自きみかんの花咲く丘に

あかるく希望の虹はたつよ

二 豊かなる 山幸 海幸

こころ燃え働く人ら

あらたなり伸び行く山口

防長の名のかほる野の上

高く建設の旗がなびくよ

三 戦ひすてたる民の

命もて築かん業主

夢あれよふるさと山口

あふぐみどりの山脈の空

今か平和の鐘もひびくよ

③ 山口県民の歌

作詞 佐藤春夫

作曲 信時 潔

一 錦帯橋はうららかに
秋吉台はさやかなり
秀麗の地に偉人出で
維新の偉業為せるかな
誇りと使命忘れめや
山口県の我らみな

二 周芳穴戸のいにしえを

つぎし大内毛利らが

代々の栄えの跡とめて

伝統永き文化の地

誇りと使命忘れめや

山口県の我らみな

三 二つの海に海の幸

地中の宝山の富

世に捧ぐべき天然の

資源は尽きぬふるさと

誇りと使命忘れめや

山口県の我らみな

防長唱歌第二集(二部)

作詞 富田武二

作曲 大橋純一郎

浅田五二

第七 吉敷郡

一 郡界なる鯖山を

下れば小鯖の榊寺

昔は西国の高野とて

今もその名ぞいと高き

二 音にきこえて鳴瀧の

泰雲寺にまたち寄りて

くれば水上の橋近き

山手に見ゆる興隆寺

三 大内氏の氏寺と

栄えしかども名にも似ず

衰へ果てて本堂の

跡は山口農学校

四 御堀の里の外郎羹

名産なればあがなひて

鰯石見つづつ鰯石橋

渡れば山口町ぞかし

五 山口はもと山口と

いふ豪族のすめりしを

大内弘世ほろぼして

基開きしあところ

六 九代の子孫の義隆卿

防長豊筑芸備石

七ヶ国を管領し

西国一の大都会

七 その館址の古寺の

庭にのこれる豊後石

苔の庭の露ふみて

誰かむかしをしき忍ぶ

(33番までつづく)

第13回中国四国地区アーカイブズウィーク

文書館レキシノオト ～音で読み解く防長の歴史～

平成30年度のアーカイブズウィークは「音」をテーマにしました(6月1日～11日)。

「文書館と音」とは不思議な組み合わせですが、注意深く耳を傾けると、所蔵資料の中から意外に多くの音が聞こえてきました。アーカイブズ展示では、これらの音に関する資料を「歴史の音」「戦いの音」「生活の音」「芸能の音」などの視点から紹介しました(展示解説シートはウェブサイトからダウンロードできます)。

歴史探究講座では、当館山本明史・和田秀作・山崎一郎専門研究員が「防長唱歌」と「県民歌」から山口県の歴史を振り返りました。また、県立山口図書館司書の廣重順子・仁田野茉莉さんには、「図書館秘蔵の『音』で聞く時代の風景」と題して図書館所蔵のSPレコードから戦前の貴重な音を紹介していただきました。アーカイブズ歴史小話では、「音で読み解く防長の歴史」をテーマに、当館職員がリレー形式で研究報告を行いました。



第九回「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」の開催 ～歴史的公文書の評価・選別のために～



平成三十年十月三十一日、第九回「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」を開催しました。これは、平成二十二年から年一回、県内市町の文書管理や文化財保護の担当者などを対象とした当館主催の会議です。二四名に参加いただきました。

今回は、「歴史的公文書とは何か」という課題を解決する第一歩として、公文書の評価・選別について考え、協議することとしました。過去に開催した連絡会議や、当館職員が市町の文書管理担当者と協議する中で、「歴史的公文書とは何が該当するのか?」という質問や悩みの声をしばしば耳にしたことから設定したテーマです。

会議の前半では、当館の吉田真夫専門研究員が、昨年度、旧・前市町村役場文書の保存場所の移転や改築状況を調査した「旧・前市町村役場文書保存場所状況調査」についての結果を報告し、続いて山本明史専門研究員が、「山口県文書館における県庁文書の選別と引継ぎ」と題した事例紹介を行いました。ここでは、当館の文書引継基準を明示し、県庁文書の評価・選別の事例を紹介するにとどまらず、現在の課題についても述べました。

後半は、演習「歴史的公文書の評価・選別」です。

事前に参加者から「歴史的公文書が迷っている・悩んでいる事例」を挙げていただき、これをベースに「グループ三～四人に分かれて討論しました。参加者から挙げた六つの事例を基に、約一時間、話し合いを行いました。少人数のグループとしたことで、一人ひとりから活発な意見が出ました。参加者からは、「他の自治体の事例を聞くことができてよかった」、「他の自治体も自分と同じように悩んでいることがわかってよかった」などの声もいただきました。一方で当館職員も、市町の現場の実情を直接知ることができ、大変勉強になりました。双方にとって、有意義な機会となったのではないのでしょうか。

引き続きこの会議を通して、市町の方々と携しつつ、歴史的公文書の適切な管理・保存が進むよう努めていきたいと思います。

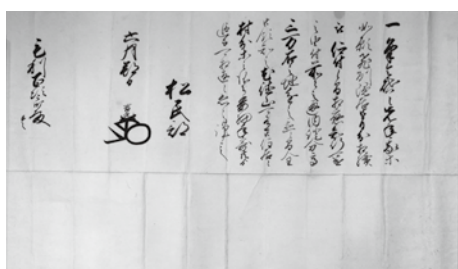


徳山毛利家文庫の 新公開資料

当館が所蔵する徳山毛利家文庫の未整理分には、木箱に収められているものがあります。そうした保存・管理の秩序を尊重し、これらを「木箱別置」文書と名付け整理を行い、今年度、五八八件、一四六七点を公開しました。

「木箱別置」文書は二四箱分です。内容は、江戸に向けた公家の接待関係や、藩士が藩から金銭を借用した際の証文類など様々です。中でも目を引くのは、徳山藩断絶前に将軍や老中が発給した文書のまとめ、あるいは幕府の意を受けて藩の再興を認める萩藩五代藩主毛利吉元から徳山藩の毛利百次郎に宛てた書状のような、藩の再興関係文書です。藩の断絶前の文書や再興に関する文書を、徳山藩では他の文書に紛れないよう、しっかりと保存・管理していたことが窺えます。

奇しくも今年は徳山藩再興の年（二七一九年）から三〇〇年です。徳山藩研究進展の一助となるよう、引き続き整理・公開作業を進めていきます。



徳山藩再興を伝える萩藩主毛利吉元書状・木箱別置6-5(6の1)

地方調査員会議を開催しています

県内に残る文書記録の把握のために



当館では、県内資料の所在状況を把握するため、地域資料の所在に精通した方に調査員をお願いしています。また、年二回、当館職員と調査員、および調査員相互の情報交換の場として地方調査員会議を開き、あわせて研修をおこなっています。

会議では様々なことが議題に上ります。今年度は旧町村役場文書の整理・活用や家文書の散逸、古写真の情報収集に関する取り組みなどが取り上げられました。担当地域や調査員の立場によって抱える課題も変わります。それらを共有し、他地域の状況も参考にしながら、地域資料をとりまく環境の改善に努めています。

研修は、県内の歴史をはじめ、関連諸分野の研究動向や他県の状況、資料の取り扱い方法など、毎回内容を変えています。今年度は第一回が襖や屏風の下張り文書の記録・整理法について、古い家屋の解体や改築が多い現在、散逸の危機にある下張り文書を、どう残し、整理・活用していくかを考えました。また、第二回は先祖調査の方法についてでした。近年ブームになっている先祖調査は、資料の使い方にコツがあり、一般の方が気軽にできるとは言い難いものです。そのノウハウを学びました。こうした研修を重ねることで、知識・技術の向上を図っています。



平成30年度第1回地方調査員会議の様子

ウェブサイトで公開!

近代刊行 写真帳類



当館ウェブサイトで近代刊行写真帳類の公開を始めました。明治末年～昭和戦前期に山口県などが刊行した写真帳9冊(当館蔵)から、掲載写真三三〇枚をデジタル化したものです(下表)。東宮、皇后の行啓記念写真帳(1・5・7)には県内各地、名所旧蹟の美しい写真が数多く掲載されています。県農会発行「防長農業図譜」(2)は県内農畜産業に関する写真帳で、農園、農産物・家畜などのほか、講習会、伝習所、農作業風景などの写真が含まれています。珍しいものとして、県庁内の印刷所風景を載せる『県印刷事業創立十周年記念写真帳』(3)や郡役所廃止に伴い発行された『都濃郡役所記念写真帳』(8)があります。後者には郡役所内の執務室、書庫の写真が掲載されています。これら写真帳でしか見ることができない風景・建物の写真が多くあります。ぜひ一度ご覧ください。



上:旧山口県庁(旧藩庁・1より)
下:都濃郡役所書庫(8より)

No.	写真帳名	刊行年	出版者	写真数	内容
1	防長名蹟	明治41年[1908]	山口県	36	東宮行啓記念写真帳。県内名所旧蹟。
2	防長農業図譜	明治42年[1909]	山口県農会	100	県内農畜産業関係写真。
3	県印刷事業創立十周年記念写真帳	大正 2年[1913]	山口県	24	県庁、県印刷所、山口市内学校・官公庁・病院等
4	山口県庁舎及県議会議事堂落成記念帳	大正 5年[1916]	山口県	13	山口県庁舎・議会議堂の全景、各部屋内部写真。
5	大正天皇后行啓記念写真帖	大正11年[1922]	山口県	25	毛利邸、防府各地、学校等。
6	山口県会記念帳	大正11年[1922]	山口県	12	県庁・議事堂、知事、県部課長、議員写真。
7	行啓記念写真帳	大正15年[1926]	山口県	45	皇太子行啓記念。県内訪問地、御座所等。
8	都濃郡役所記念写真帳	大正15年[1926]	都濃郡役所	12	都濃郡役所全景、職員、執務室、書庫等。
9	錦川利水工事記念写真帳	(昭和15年[1940]カ)	山口県	53	起工式、工事風景、竣工式、完成施設写真等

平成三十年度の

新収諸家文書を紹介します！

今年度、一六家・五、三〇七点の諸家文書の公開を開始しました。その中から四つの文書群を紹介します。

■嶋田家文書

嶋田家は長門国吉田村(現、下関市)の旧家で、明治初期には同村の戸長を務めていた家です。文書は、代々嶋田家が家宝として大切に保存してきた「講孟劄記評語」です。「講孟劄記評語」は、吉田松陰が「孟子」の講義内容を「講孟劄記」(のち「講孟余話」としてまとめるにあたり、明倫館学頭を務めた山県太華に批評を依頼し、さらにその太華の批評に松陰が反論を加えた内容が記されているものです。

松陰神社所蔵の「講孟劄記評語」の別本にあたり、松陰神社所蔵本には無い文字情報を含んでいます。「吉田松陰全集」第二巻(岩波版)に「講孟余話附録」として収録されています。なお本書には、松陰の従兄弟で、門下生でもあった久保久清の蔵書印があります。

■多田穂波収集文書

多田穂波氏(本名房雄、一九二二〜九六)は、国鉄退職後に、豊北町(現、下関市豊北町)で表具店を営む傍ら、特に出身地である萩市見島の歴史・民俗について熱心に研究を進め、豊北町歴史民俗資料館友の会理事、豊北町郷土文化研究会理事、豊北町史編纂委員などを務めました。文書の内容は、多田氏が収集・復元した襖の下張文書群というユニークな性格をもつものです。廃棄文書という性格上、あまり目にするのではない内容、性格をもった文書も含まれています。地域的には、栗野、矢玉、田耕、神田上、阿川、二見など豊浦郡内に関するものが多いのが特徴です。家別では、西嶋家、内田家(矢玉)、根来家、山本家などの文書が比較的まとまっています。主題別では、廻船、仕切状が多い点が特徴です。

■長井家文書

長井家は大江姓で、大江広元の次男時広を祖とし、萩藩主毛利家とは同族です。近世は大組に属し、幕末に藩政を主導した長井雅楽(時庸、一八一九〜六三)は当家の出身です。雅楽没後、娘の貞子とその子・時彦は毛利公爵家に仕えています。文書の内容は、長井雅楽関係文書が中核を占めます。それ以外は、雅楽以前の長井家が萩藩士として活動したことにより作成・授受した文書群、雅楽没後の幕末以降、特に近代に入ってから貞子・時彦親子の書簡を中心とした文書群、ならびに明治を主とした和歌詠草や書画、書籍に大別されます。長井雅楽関係文書には夫人や娘の貞子との間で取り交わされた書状も多く残り、政治家・長井雅楽の違った一面を垣間見ることが出来ます。

■平成30年度の新収諸家文書

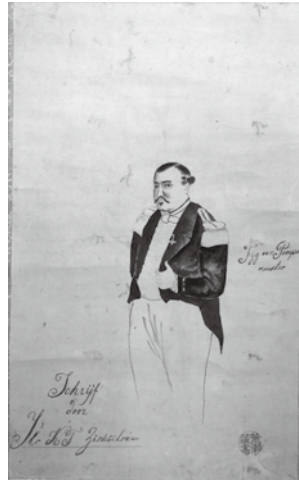
No.	文書名	点数	主な文書の年代	文書群の特徴(関連地域、個人・家の歴史、就任役職等)
1	荒瀬家文書	862	近世～現代	漢学者／医者
2	飯田家文書	368	近世～現代	医者／辞令／医学書
3	井下家文書	15	中世～近世	石見土豪／福屋氏家臣／岩国藩士
4	大中家文書(神奈川県)	47	近世～近代	萩藩士(一代遠近付・御手廻組)
5	尾崎家文書(追加)	14	近代～現代	技師／アフガニスタン
6	佐々木家文書	546	近世～現代	庄屋／畔頭／萩藩士／村長／教員
7	佐々木均文書(追加)	73	現代	県職員
8	佐世家文書	142	中世～現代	萩藩士(大組)
9	佐田家文書(山口市吉敷)	187	近世～近代	村会議員／新聞
10	志道家文書(追加)	1198	近世～近代	萩藩士(大組)／戸長／協同会社／郵便局
11	嶋田家文書	1	近世	和書／吉田松陰
12	多田穂波収集文書	746	近代～現代	コレクション／下貼文書
13	田中保彦収集史料(追加)	80	近代	写真
14	長井家文書	717	近世～現代	萩藩士(大組)
15	防長武学生養成所文書	25	近代～現代	武学生養成
16	松村政弘収集文書	286	近世～近代	コレクション／萩藩士(永代家老)／勘場守／区長／村会議員

■荒瀬家文書（防府市）

幕末を生きた荒瀬桑陽は、上洛して儒学・天文学等を修めたのち長崎へ赴き、帰郷後は、現在の防府市江泊に「江沖塾」を開き上山満之進ら近在の後進を育てました。その子収甫は一八六〇年長崎に赴き、幕末に來日して日本で初めて体系的に西洋医学を教えたボンペ・ファン・メーデルフルトに入門、三田尻に帰ってから山口県立華浦医学学校教師等の公職に就き、のち自宅にて開業しました。さらに収甫の子政一も医の道に進み、開業医として地域医療にあたる一方で、日露戦争に軍医として従軍しました。続く進も同じく医者となり、大阪帝大医学部教授、国立善通寺病院長等をつとめました。荒瀬家文書には、桑陽以下各人の関係資料のほか、政一撮影と思われる大正時代の写真や、絵葉書も数多く含まれています。



大正時代の萩往還。防府市華浦付近(No305)



ボンペ肖像画。荒瀬家ではボンペを神のように崇めていました(No135)



揚水用の踏車。遠くに鞠生松原、大平山を望む(No305)



桑陽が明治6年に描いた防府図(部分)。中央下に御茶屋(現英雲荘)と老松神社、右に防府天満宮と国分寺、左上に三田尻塩田がみえます(No1)

閲覧室から

米プリンストン大学 コンラン教授一行の来館

平成三十年六月、アメリカのプリンストン大学歴史学部東アジア研究科のトーマス・コンラン教授が学生二人と来館されました。コンラン教授は、日本の中世軍事史が専門で、近年は山口県と関わりの深い大内氏の研究に取り組んでいることから、毎年のように来日・来山されています。

今回の調査は、五月末から行われた京都大学による古文書合宿に参加したプリンスン大学大学院生五名のうち、ネーザン・レッドベッターさんとデビッド・ロムニーさんの二名が、合宿後、教授と一緒に山口県及び当館にまで足を延ばされたものです。一行は書庫見学の後、「興隆寺文書」「右田毛利家文書」「三浦家文書」など、当館が所蔵する代表的な中世文書を閲覧されました。

私たち日本人でも読み解くのが難しい中世の古文書を、時には音読も交えながら、熱心に検討されていました。母国語以外の言語(しかも現代語ではない)と知識を駆使する三人の様子に館員一同感心することしきりでした。



左からロムニーさん、レッドベッターさん、コンラン教授

資料紹介

■ 亀山山頂より ～記録された明治のながめ～



写真①「県庁を望む」



写真②「石州及萩街道を望む」



写真③「古熊山を望む」



写真④「三田尻街道を望む」



写真⑤「小郡街道を望む」



写真⑥「鴻峰を望む」

平成30年(2018)9月、山口市の亀山山頂広場が市民公園としてリニューアルされました。広場は、中心市街地を一望できる高さ68メートルの小高い丘陵に位置しています。

明治30年代、ここには毛利敬親・元徳と支藩主の銅像6体が建立され、銅像公園として親しまれていました。亀山で重視されたのはその眺望であったと考えられます。当時の県庁舎や県会議事堂、毛利家香山墓所、元就・敬親を祀る豊栄神社・野田神社などを眼下に見渡すことができる亀山は、「近代日本の旗手」となった山口県人の紐帯を象徴する場所のひとつとして強く意識されていたのでしょう。昭和11年(1936)12月、「王政復古七十年」記念式典の会場も亀山でした。

毛利家文庫(81写真資料31)には亀山山頂からの眺望を収めた写真が6点残されています(いずれも山口町の写真師麻生雲烟撮影)。撮影方向を北から時計回りに並べると①から⑥の順になります。写真⑤に落成直前の日露戦役記念砲台公園の様子を確認できることから、撮影時期は明治43年(1910)春と推察されます。写真からは、旧藩庁門、瑠璃光寺五重塔、八坂神社の木製大鳥居、旧松原写真館の塔屋と写場のトップライト(あかりとり)、豊栄神社・野田神社・今八幡宮の社叢、龍福寺、歩兵四二聯隊の兵営、高等商業学校グラウンド、県立山口図書館などを確認できます。萩往還道や石州街道沿いに建物の棟がすきまなく連続しており、当時のまちのにぎわいの様子が伝わってきます。さらに、周囲の山容に目をむけると、所々に樹木の伐採された箇所が見えます。下草・落葉なども利用されていたものと思われ、山が当時の日常にとりこまれていたことがわかります。

なお、写真データは当館 web サイトからダウンロードできます。



山口県文書館

〒753-0083 山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116 FAX083-924-2117 <http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>

利用時間

【開館時間】 火曜日～日曜日 9:00～17:00

【閉館日】 月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。

閲覧室へは2階へお上がり下さい。

※毎月の開・閉館日は、当館webサイトの閲覧室カレンダーをご覧ください。